

令和6年能登半島地震による志賀原子力発電所の影響について（第3報）

2024年1月2日
北陸電力株式会社

志賀原子力発電所は、1、2号機とも定期検査により停止中であり、外部電源や必要な監視設備、冷却設備等については機能を確保しており、これまでの点検において、安全上問題となる被害は確認されておられません。

発電所に設置しているモニタリングポストの数値に変化はなく、外部への放射能の影響はありません。

11時時点にお知らせした以降の点検状況4件について、以下のとおりお知らせします。また、余震が継続しており、今後とも必要に応じて点検してまいります。

なお、11時時点にお知らせしていた1号機の起動変圧器の漏えいした油については、現在ドラム缶への回収を完了しております。また、2号機の主変圧器の漏えいした油については現在ドラム缶への回収に着手しており、回収完了時刻は本日21時頃を予定しております。（11時時点の点検内容を別紙1）

（1）1号機 放水槽防潮壁の傾き

- 1号機の放水槽の周囲（全周約108m）に津波対策として設置した鋼製の防潮壁（高さ4m）の南側壁が、地震の影響により数cm程度傾いていることを確認したが、その他の側壁は健全であり、倒壊する恐れはない。

（2）1、2号機 廃棄物処理建屋エキスパンションジョイントシールカバーの脱落

- 1号機廃棄物処理建屋と2号機廃棄物処理建屋を接続するゴム製のシール部材（エキスパンション）を覆う金属製のカバーが脱落していることを確認した。シール部材自体に損傷がないことから、外部への放射能等の影響はない

（3）1号機 純水タンク水位低下

- 発電所の冷却水の補給用に使用している純水を貯蔵するタンクにおいて、毎分7.3リットル程度（438リットル/時）の水位の低下があることを確認した。同タンクは補給用に使用するものであり、漏えい量は純水の製造能力（20,000リットル/時）に比べてわずかであることから、発電所の冷却機能には影響はない。

漏えい箇所については現在調査中。

なお、使用済燃料貯蔵プールの補給等には他のタンクの水を使用しており、使用済燃料貯蔵プールの冷却機能に影響はない。

(4) 2号機 使用済燃料貯蔵プール落下物

- 2号使用済燃料貯蔵プール内に保管してあった原子炉冷却材再循環ポンプの検査装置の一部が使用済燃料貯蔵プールの底部に落下していることを確認した。落下物については、再循環ポンプインペラ点検装置の一部であり、いずれも燃料から離れた位置（約4 m）に落下していることから燃料貯蔵プール内の燃料に影響はない。

本件につきましては国、石川県、志賀町等関係自治体に連絡しています。

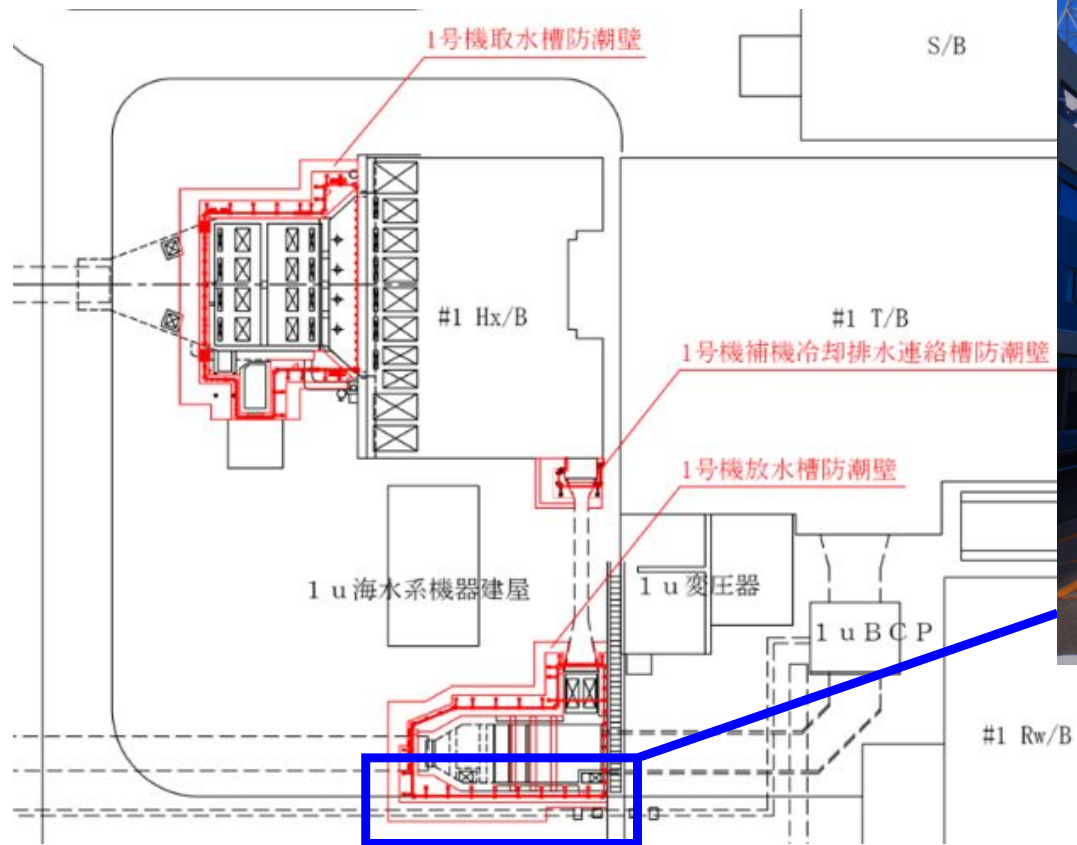
添付資料1 1号機 放水槽防潮壁の傾き

添付資料2 1, 2号機 廃棄物処理建屋エキスパンションカバー脱落

添付資料3 2号機 使用済燃料貯蔵プール落下物

別紙1 お知らせ済みの件名

以 上

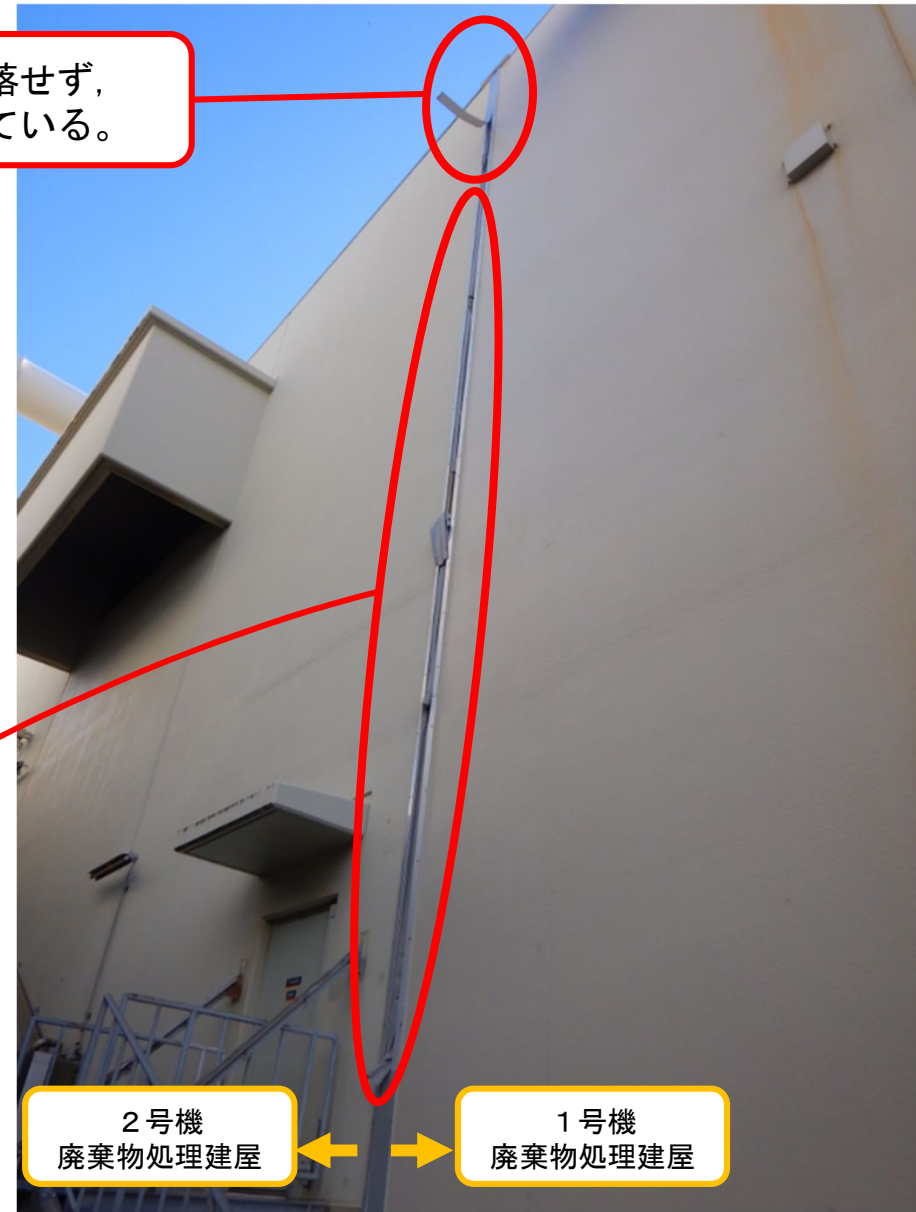


防潮壁の南側壁が事務本館側に全体的に傾きあり。

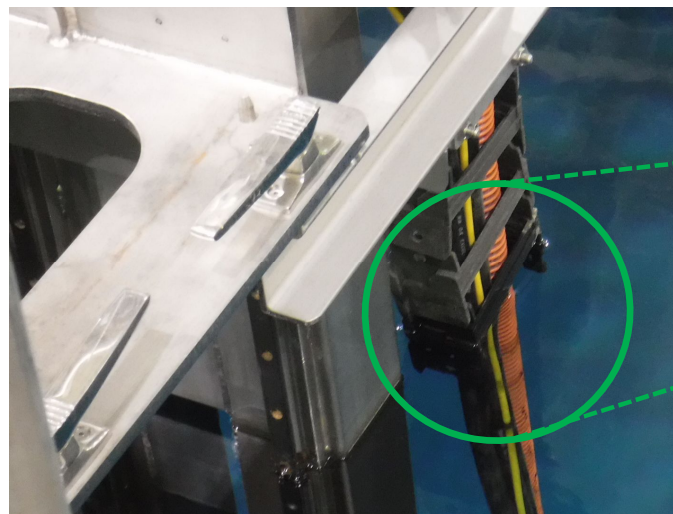
1号機 放水槽防潮壁の傾き

上部約5mのカバーは脱落せず、
ぶら下がった状態となっている。

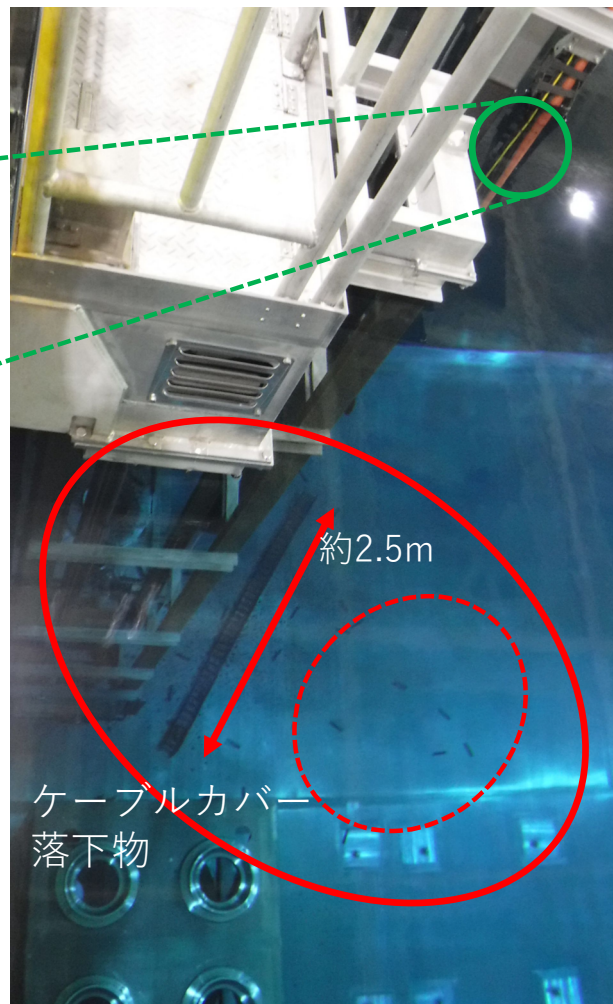
エキスパンション・ジョイント
のカバー（合計約20m）のうち、
約15mのカバーが脱落。



1, 2号機廃棄物処理建屋エキスパンション・ジョイントのカバー脱落

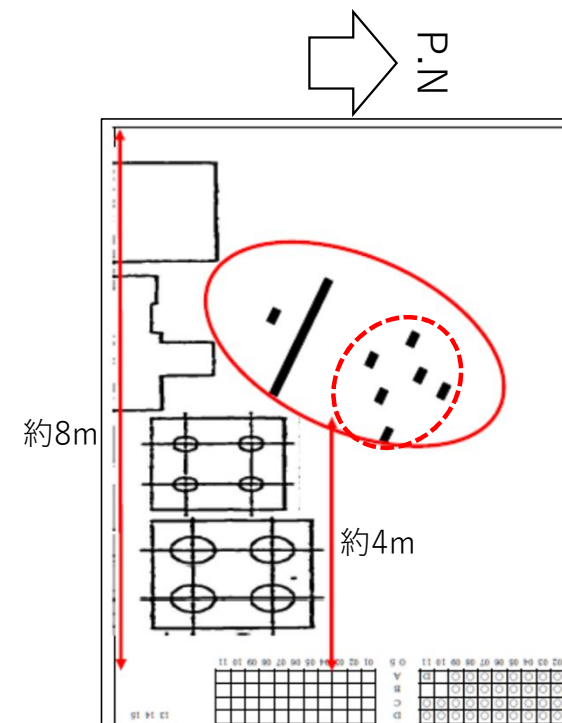


原子炉冷却材再循環ポンプ
インペラ・シャフト検査装置
水中TVカメラユニットケーブルカバー



ケーブルカバー
落下物

約2.5m



2号機 使用済燃料貯蔵プール落下物

今までのお知らせ件名

| 件名 | 内容 | 更新情報 |
|----------------------------------|---|--|
| 1号機起動変圧器からの油漏れ及び放圧板の動作、噴霧消火設備の起動 | <ul style="list-style-type: none"> 当該変圧器の現場確認を行い、変圧器の絶縁油が約 3,600 リットル（推定）漏れていたことを確認しましたが、絶縁油は堰内に収まっており、外部への影響はありません。 なお、地震発生時に1号機起動変圧器の放圧板の動作及び噴霧消火設備を手動起動したことが確認されました。放圧板が動作した原因等は調査中です。また、火災の発生は確認されておりません。 | <ul style="list-style-type: none"> 変圧器絶縁油の抜き取りを実施しました。 1号機の起動変圧器の漏洩した油については、約 3,800 リットル（ドラム缶 19 本分）の回収を 13 時 20 分に完了しております。 |
| 2号機主変圧器からの油漏れ及び噴霧消火設備の起動、放圧板の動作 | <ul style="list-style-type: none"> 当該変圧器の現場確認を行い、変圧器の絶縁油が約 3,500 リットル（推定）漏れていたことを確認しましたが、絶縁油は堰内に収まっており、外部への影響はありません。 噴霧消火設備の起動及び放圧板が動作した原因等は調査中です。また、火災の発生は確認されておりません。 | <ul style="list-style-type: none"> 2号機の主変圧器の漏洩した油については 14 時 15 分にドラム缶への回収に着手した。 |
| 1号機使用済燃料貯蔵プール水の飛散 | <ul style="list-style-type: none"> 飛散した量は、約 95 リットル、放射エネルギーは約 17,100 Bq でした。外部への放射能の影響はありません。 | |
| 2号機使用済燃料貯蔵プール水の飛散 | <ul style="list-style-type: none"> 飛散した量は、約 326 リットル、放射エネルギーは約 4,600Bq でした。外部への放射能の影響はありません。 | |
| 1号機タービン補機冷却水系サージタンクの水位低下 | <ul style="list-style-type: none"> 原子炉建屋、タービン建屋の換気空調系の冷却コイルから冷却水が漏洩し、水位が低下していることを確認しました。漏えい箇所を特定し、弁等を閉止することにより漏えいが停止しました。 | |
| 2号機低圧タービンにおける「伸び差大」警報発生 | <ul style="list-style-type: none"> 地震による揺れにより、「伸び差大」の警報が発生したものと想定されます。今後タービン内部の異常の有無等について確認する予定です。 | |